



その蓄尿必要ですか？

先日行なわれました医療安全・質向上のための相互訪問で、東京大学の訪問員の先生から、蓄尿が多く院内感染の起こる素地であるので、できるだけ必要性の乏しい蓄尿を減らすようにとのご指摘を受けました。汚染された尿器や環境を介して多剤耐性菌が交差感染し、院内感染として広がる可能性があります。一例を挙げれば、多剤耐性緑膿菌の院内感染アウトブレイクの原因が蓄尿であったという事例が3年前に2つの国立大学から報告されています。

蓄尿が多くなれば院内感染のリスクが高くなります。院内感染対策はリスクを減らすことも重要です。もう一度受け持ちの患者さんに必要性の低い蓄尿をオーダーしていないかどうか、病棟医長の先生や指導医の先生で見直しを行なってください。



ノロウイルスによる嘔吐下痢症への対応

ノロウイルスによる嘔吐下痢症の流行する季節になりました。ノロウイルスは、エンベロープをもたないウイルスのため、アルコールに抵抗性です。嘔吐、下痢の症状のある患者さんのケアの後には、流水と石けんによる十分な手洗いを行ないましょう。

また、吐物などの処理には、手袋、エプロンとマスクを着用し、吐物が拡がらないように拭き取り、拭き取ったあとは、次亜塩素酸ナトリウム(テキサント)による消毒を行ないましょう。潜伏期間は、2～3日です。症状の出現には注意しましょう。



咳エチケットを守りましょう

いよいよインフルエンザのシーズンがやってきました。例年、院内において患者さんや職員がインフルエンザを発症することが30例ほどみられます。外来の患者さんも発熱で受診されることも多いので、病院内でインフルエンザが感染しないように、いくつかの注意点を守っていただくようお願いいたします。

職員の皆さんは、発熱がある場合、出勤を控えて、医療機関を受診いたしましょう。発熱がみられる、あるいは咳の出る患者さんには、マスクの着用をお願いし、マスクを正しく着用するように指導して下さい。また、手指衛生も重要ですので患者さんに手洗い指導をすると同時に職員の皆様も常に手指衛生を心がけて下さい。

さらに「咳エチケット」という言葉をご存知でしょうか？

咳エチケット

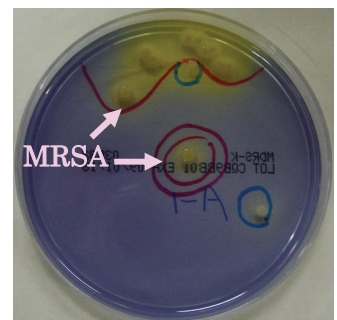
- ◇咳やくしゃみをするときは、ティッシュで口と鼻を覆いましょう
- ◇ティッシュは近くのゴミ箱に捨てその後、よく手洗いをしましょう
- ◇咳をしている人にはサージカルマスクを着用させる



咳エチケットを守って感染が拡がらないように注意しましょう。

キーボードにもご注意を！

病院内の環境表面には様々な汚染が考えられます。特に電子カルテなど、キーボード操作が日常診療でますます増加してきています。キーボードは複数の医療従事者の手指が頻回に触れるところです。また、汚染した手指で触れる可能性の高いところであり、MRSAの汚染個所としても注意が必要です。キーボードは汚染しているものと考え、キーボード操作の後にも必ず手指衛生を実施するように心がけましょう。いつでも手指衛生ができるように携帯用速乾性手指消毒剤を活用しましょう。



キーボードから検出したMRSA